金沢美大
柳宗理デザインミュージアム（仮称）
基本構想

令和４年２月

金　沢　市

－ 目　次 －

はじめに 1

１．基本構想策定の経緯 2

（１）金沢とデザイン 2
（２）金沢美大と柳宗理 2
（３）西町教育研修館の利活用の検討 7
（４）意義 11

２．基本構想 12

（１）ビジョン 12
（２）ミッション 12
（３）担うべき役割 13
（４）求められる機能 13
（５）基本構想 18

３．実現に向けた課題・留意点 19

［参　考　資　料］

１．西町教育研修館（旧石川県繊維会館） 21

（１）平面図 21
（２）建物の現状 22

２．周辺施設 26

（１）施設（旧園邸）概要 26
（２）建物の特徴 26

３．金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）基本構想検討会 27

（１）委員名簿 27
（２）開催状況 27

はじめに

金沢は明治 20 年に金沢区工業学校（現石川県立工業高等学校）が設立されるなど、日本の産業デザイン教育の先駆けの地であり、また昭和 21 年には、金沢市は金沢美術工芸専門学校を設立し、昭和 30 年に 4 年制の金沢美術工芸大学となる際、国内初の「産業美術学科（工業意匠、商業美術）」を開設して、デザイン教育に力を入れてきました。

戦後の日本を代表するインダストリアル・デザイナーである柳宗理は、約 50 年の長きにわたり、金沢美術工芸大学で教鞭をとり、多くの学生に影響を与え、多くのデザイナーを輩出してきました。

柳宗理の没後、一般財団法人柳工業デザイン研究会より、デザイン関係資料が金沢美大に寄託され、これらの積極的活用を図り、学術研究及びデザイン教育・制作活動の充実・発展、地域貢献を果たすことを目的とし、尾張町に柳宗理記念デザイン研究所を開設しました。

また、金沢市西町教育研修館は、昭和 27 年に文化勲章受章者で、金沢市名誉市民第一号の建築家谷口吉郎の設計で、石川県繊維会館として建設され、その後、金沢市が取得し、昭和 60 年より金沢市中央公民館西町館、平成 14 年より金沢市西町教育研修館として活用してきましたが、金沢子ども科学財団の移転や建物の老朽化等により、今後の活用策を模索しておりました。

現在寄託されているデザイン資料が令和 2 年 11 月に金沢美大に寄贈されることで合意し、その資料の利活用に向け、西町教育研修館を候補地として金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）基本構想検討会を設置し、 3 回にわたり議論を重ねてきました。

この基本構想では、新たな施設のビジョンを「デザインと建築意匠を通した美と創造の交流拠点」としています。柳宗理のデザイン資料の展示機能だけではなく、教育・研究・収蔵・普及・発信・交流機能を一体的に備え、また、谷口吉郎が設計した西町教育研修館を利活用することで、同時代を生き、また現代の礎として共に影響を与え続ける両名を後世に受け継ぐ、知的な活気と賑わいに溢れる施設としていきます。

本基本構想に基づき、新たな施設は「デザインと建築意匠を通した美と創造の交流拠点」にふさわしく、国内外から幅広い皆様方に来館していただき、時代を超えて親しまれ、評価される施設となることを目指して整備を推進してまいります。

1．基本構想策定の経緯

（1）金沢とデザイン

・金沢は 1887(明治 20)年に金沢区工業学校（現石川県立工業高等学校）が設立され、日本の産業デザイン教育の先駆けの地である。

・1946(昭和 21)年に金沢美術工芸専門学校を設立し、1955(昭和 30)年に４年制の金沢美術工芸大学（以下、「金沢美大」という）となる際、国内初の「産業美術学科（工業意匠、商業美術）」を開設して、デザイン教育に力を入れてきた。

（2）金沢美大と柳宗理

①柳宗理のデザイン思想を継承

・金沢美大では「美術・工芸・デザイン」を柱とし、設立当初より、美術を産業振興に活かすことを目指している。

・その第一人者が柳宗理（戦後の日本を代表するインダストリアル・デザイナー）で、約 50 年にわたり金沢美大で教鞭をとり、多くの学生に影響を与えた。

柳 宗理　1915(大正 4)年―2011(平成 23)年

戦後の日本を代表するインダストリアル・デザイナー。生活用品から大型公共構造物まで手がけるほか、世界デザイン会議やオリンピックのデザインにも参加。
金沢美大では 1956(昭和 31)年から約 50 年にわたり教鞭をとった。1977(昭和 52)年から約 30 年にわたり日本民藝館長を務めた。2002(平成 14)年文化功労者として顕彰。

柳工業デザイン研究会 HP より

②柳宗理記念デザイン研究所の開設

・2012(平成 24)年に（一財）柳工業デザイン研究会よりデザイン関係資料が金沢美大に寄託され、2014(平成 26)年 3 月に柳宗理記念デザイン研究所を尾張町に開設した。

柳宗理記念デザイン研究所

基本計画（抜粋）　※2014(平成 26)年３月金沢美術工芸大学教育審議会で承認

■設置の理念と目的

柳宗理のコレクションの積極的活用を図り、学術研究及びデザイン教育・制作活動の充実・発展、地域貢献を果たすことを目的とする。

■活動計画

①柳宗理コレクションを中心としたデザイン研究
（寄託資料の調査・研究、成果の公表・発信など）

②本学学生への学習支援
（寄託資料の授業への活用、学生の作品展示、講演など）

③普及活動など地域貢献
（寄託資料や研究成果の公表・発信、市民講座の開設、講演会、ＷＳなど）

施設概要

■所在地　金沢市尾張町２丁目 12 番１号
■建物構造　鉄筋コンクリート造　地上５階・地下１階（1，２階を使用）
■建築　1966(昭和 41)年（築 55 年）
■開所　2014 年３月
■運営　金沢美大
■開館時間　9：30～17：00（毎週月曜休館）
■利用料　無料

■展示

作品や空間を通して柳宗理のデザインにおける考え・姿勢を知れるよう展示。直にモノを見、触れてモノと対話してもらうため、キャプション・説明文を用意せず、知識や先入観なしに、無心にモノと向き合って自らの眼で素直に美を感じ取ってもらうことを大切にしている。

■活動

・柳宗理及び同時代のデザインの調査研究
・企画展示、公開講座
・柳宗理関連書籍や関連情報の提供
・金沢美大の学生の成果発表の場としても活用

事業実績

1 展示

- 展示資料室１：現行製品等による再現的展示（(一財)柳工業デザイン研究会）
  壁面ケースでのテーマ展示（約３か月毎に入替）
- 展示資料室２：企画展示（(一財)柳工業デザイン研究会、柳宗理記念デザイン研究所）
  教育活動の成果発表（製品デザイン専攻の学生等）

2 普及

- 公開講座（講演会）
- 団体見学の受け入れ（県内外のデザイン系の学生等）

3 調査研究

- 「白い陶器シリーズ」の調査研究
- 資料調査
- 柳宗理データベース構築（年譜、作品、著作等）　等

施設構成

［１階］

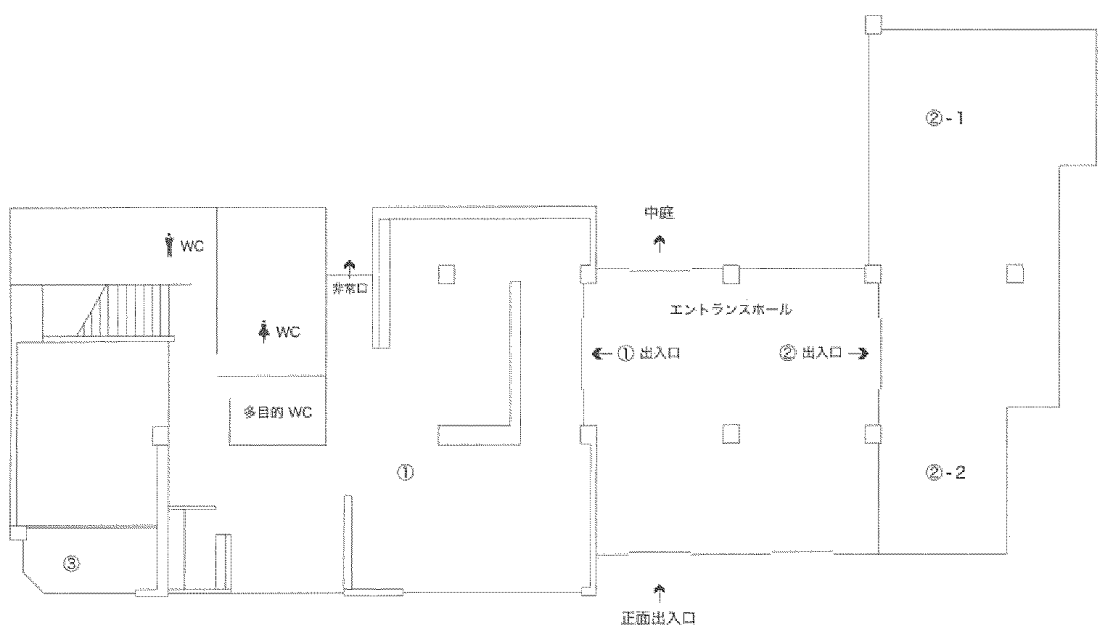
①　展示資料室１	107.7 ㎡
②-1　展示資料室２	65.0 ㎡
②-2　インフォメーション	15.0 ㎡
○　事務室	35.9 ㎡
③　ウインドーディスプレイ	
１階計	223.6 ㎡

［２階］

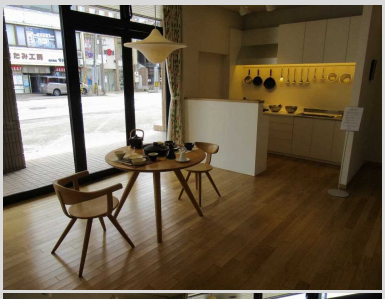
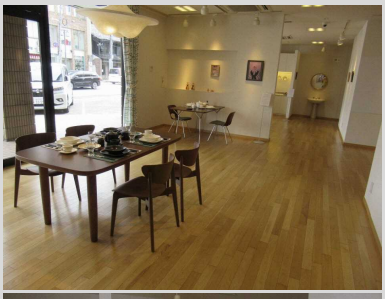
○レクチャールーム（40 席）	90.5 ㎡
○研究書庫	60.3 ㎡
○保管庫	48.9 ㎡
２階計	199.7 ㎡

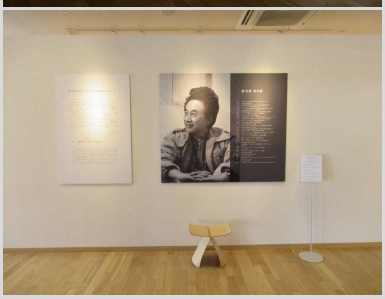
１,２階合計　423.3 ㎡

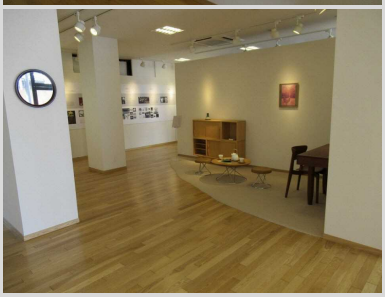
１階平面図



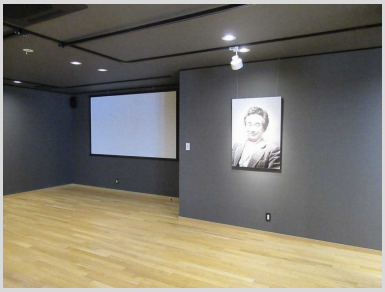
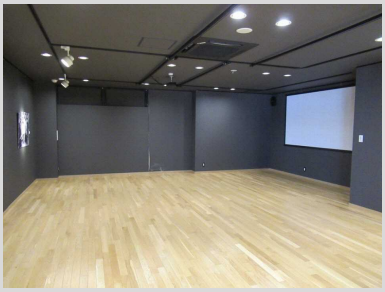
【展示資料室１】



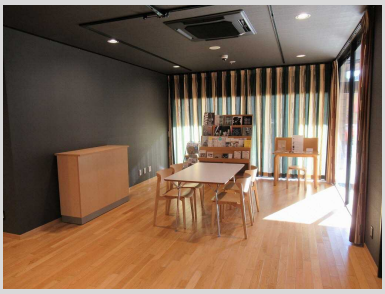


【展示資料室２】

【受付】

【インフォメーション】



③デザイン関係資料寄贈の合意

・2020(令和 2)年 11 月に(一財)柳工業デザイン研究会が金沢美大にデザイン関係資料 6,701 点を寄贈することで合意した。

寄贈予定のデザイン資料

大分類	寄贈予定資料の員数（単位：点）
10.家具／インテリア	738
20.テーブルウェア	1,808
30.キッチンウェア	828
40.工業製品	376
50.公共／オリンピック	72
60.グラフィック	2,348
70.その他	447
80.収集品	61
90.図面	23
合計	6,701

資料番号 100049
バタフライ・スツール（初期試作）
デザイン年　1956 年
製造　仙台産業工業試験所か
（画像：金沢美術工芸大学提供）

資料番号 500004
東京オリンピック
トーチホルダーとパッケージ
デザイン年　1964 年
（画像：金沢美術工芸大学提供）

資料番号 500005
東京オリンピック
聖火筒とパッケージ
デザイン年　1964 年
（画像：金沢美術工芸大学提供）

（３）西町教育研修館の利活用の検討

・1952(昭和 27)年に石川県繊維会館として建設された西町教育研修館は、文化勲章受章者で、金沢市名誉市民第一号の建築家谷口吉郎が設計した貴重な建物。

・外観のみならず、内部は地元産の石やレンガを用いるとともに、照明のデザインまで手掛けるなど、きめ細やかな意匠でまとめられている。

・柳宗理とともに金沢美大産業美術学科の教授や第４代学長を務めた五井孝夫が監理を担当。

・金沢美大前身の金沢美術工芸専門学校の設立に尽力し、教授や名誉教授を務めた宮本三郎による大壁画「産業と文化」がある。

・現在、耐震化を含め、今後の活用策を検討中。

西町教育研修館

施設概要

■所在地　　金沢市西町三番丁 16 番地
■敷地面積　　848.65 ㎡
■延床面積　1,683.16 ㎡
■建物構造　鉄筋コンクリート造　地上３階・地下１階

西町教育研修館

宮本三郎作の壁画「産業と文化」　昭和 29 年
この場所で合板（H2.7×W5.0）に描かれたもの。産業（繊維、農業、商業等）に携わっている人々の姿や絵画、陶芸、音楽の演奏、創作活動をする人々が描かれている。

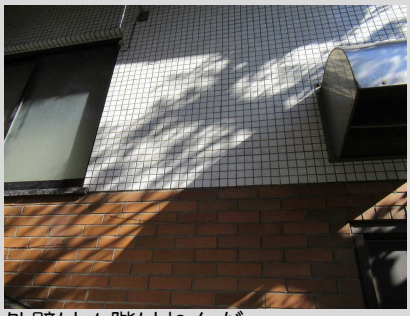
年　月	経　緯
1952 年（S27）10 月	**石川県繊維会館**として建設（**谷口吉郎**設計）
1983 年（S58）	金沢市が購入
1985 年（S60）～	改修後、**中央公民館西町館**として使用
2001 年（H13）	公民館機能が移転、改修工事（１階を建設当時の仕様に復元、２～３階は実験室など機能優先で改修）
2002 年（H14）１月	**西町教育研修館**が開館 （金沢子ども科学財団、金沢大学サテライトプラザが入居）
2019 年（R1）７月	金沢子ども科学財団が移転

建物の特徴

モダニズム建築に、瓦葺きの切妻屋根
（周辺の町家に配慮）

窓と窓の間の幅が狭く、エレガントな外観

窓に庇、正面１階の壁面をセットバック
（雨雪に配慮）

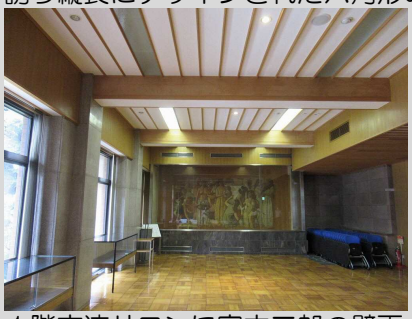


外壁は１階はれんが、
２･３階は外装モザイクタイル

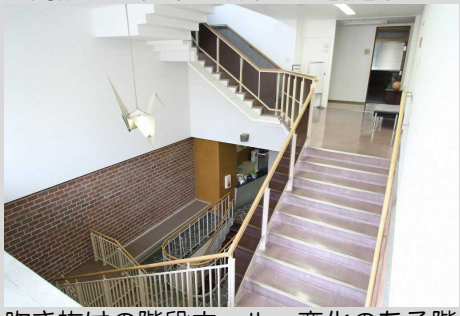
入口の庇を支える多角形の柱
（縦線を増やし、ほっそり見せている）

戸室石を敷き詰めたアプローチ、中へ
誘う縦長にデザインされた六角形の形状

１階ホール壁面に亀甲紋を意識した
六角形の石、床は鉄平石の乱貼り



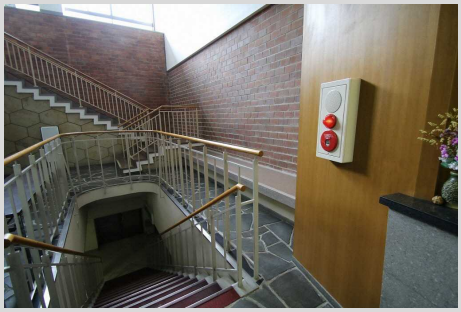
１階交流サロンに宮本三郎の壁画、
天井は石膏プラスター塗の竿付き天井



吹き抜けの階段ホール、変化のある階段

折り鶴形の照明器具
（当時最新の蛍光灯を使用）

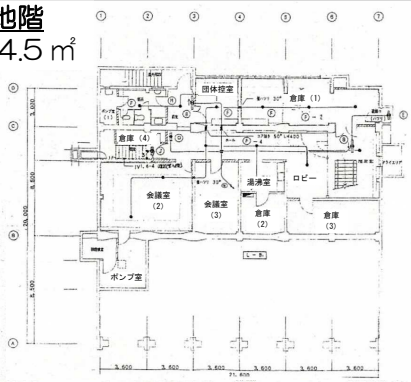
鋭角の階段



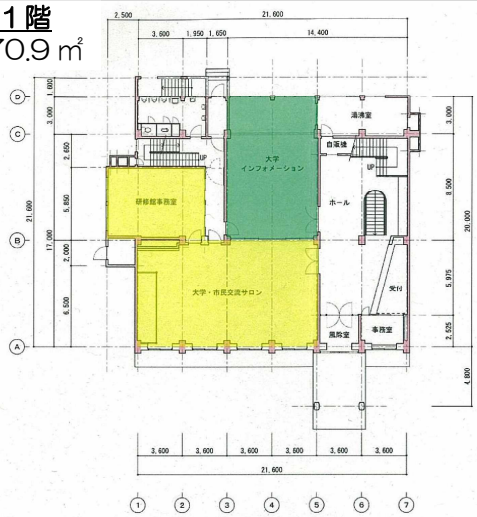
後付けの地下への階段、人研ぎのベンチ
（元は繊維の展示台）

現在の平面図　延床 1,683.16 ㎡

地階
284.5 ㎡

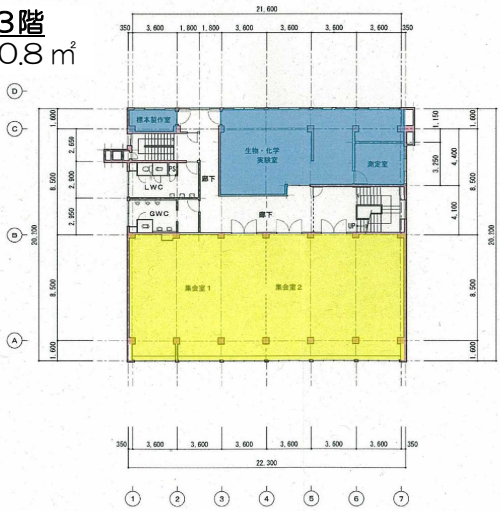


1階
470.9 ㎡



2階
450.8 ㎡

3階
450.8 ㎡



4階
26.16 ㎡
物置
（図面なし）

凡　例

- 金沢大学
- 子ども科学財団
  ※2019 年移転済み
- 金沢市

谷口 吉郎　1904(明治 37)年―1979(昭和 54)年

東京帝国大学で建築を学び、東京工業大学教授となる。
博物館明治村初代館長。文化勲章受章。金沢市名誉市民第１号。
2019(令和元)年７月には金沢市寺町の住まい跡地に、吉郎氏の長男吉生氏の設計により「谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館」が開設。

主な作品：東宮御所、東京国立博物館東洋館、
迎賓館赤坂離宮和風別館「游心亭」

五井 孝夫　1904(明治 37)年―1986(昭和 61)年

三重県桑名市生まれ。谷口吉郎と東京帝国大学建築学科の同期で、谷口吉郎の妹と結婚。戦後、金沢で五井構造設計研究所を開設。石川県建築士会初代会長(昭和 27)、金沢美大教授(昭和 30-40)、同大学長(昭和 50-56)などを務めた。

宮本 三郎　1905(明治 38)年―1974(昭和 49)年

石川県小松市出身の洋画家。戦後、第二紀会（後・二紀会）を設立。
金沢美術工芸専門学校講師(昭和 21)、同校教授(昭和 23-25)、日本芸術院会員(昭和 41)、二紀会理事長(昭和 42)、金沢美大名誉教授(昭和 46)などを務めた。

（4）意義

①デザインは社会課題を解決する

・デザインの創造とは、表面上の変化ではなく、創意工夫をもって内部構造を改革することである。（柳宗理のデザイン十ヶ条より）

・大量生産・大量消費からサスティナブルな社会への転換が進められている中、様々な営みにおいてデザインの重要性が増している。

②市民の美意識と創造力を向上する

・金沢は伝統工芸が継承され、現代アートも浸透しており、芸術文化を守り育てていく土壌ができている。

・さらに、工業デザインなど日常におけるデザインへの理解を深め、市民の美意識と創造力を培うことで、文化都市としての金沢の品格が一層深化し、市民の誇り醸成につながる。

③地域産業・地域経済の振興に貢献する

・デザインミュージアムを通して、創造力のある人材を育成し、デザインと産業活動を連携させ、地域産業の発展・革新につなげる。

・創造的なまちづくりを進める金沢の取組を内外に発信することで、新たな交流を生み、経済振興に貢献する。

④デザインと建築意匠の相乗効果を図る

・東宮御所や東京国立近代美術館、迎賓館赤坂離宮和風別館游心亭等、日本を代表する建物を多く手掛けた谷口吉郎が設計した西町教育研修館の建築意匠の中で、日本を代表する工業デザイナー柳宗理の作品を展示することで、相乗効果が期待できる。

産業デザイン教育の先駆けである金沢で、柳宗理のデザイン関係資料を活用し、人々のデザインへの理解と創造力の向上を図り、金沢の魅力の深化と産業振興につなげる必要がある。

日本を代表する建築家谷口吉郎が設計し、金沢に現存する数少ない建築物である金沢市西町教育研修館を利活用し、建築文化の発信を行う。

金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）
の整備に向け基本構想を策定

2．基本構想

（1）ビジョン

デザインと建築意匠を通した
美と創造の交流拠点

洗練された建築意匠の中で、柳宗理のデザイン関係資料の活用をはじめ、デザインに関する様々な活動を通して、人々のデザインへの理解を深め、美意識と創造力を培い、産業や経済の発展に貢献する交流拠点を目指す。

（2）ミッション

柳デザインを学ぶ
柳宗理デザイン研究所の理念と目的をベースに、
金沢美大の活動に活用する。

次世代人材を育成する
柳宗理のデザイン資料や調査研究等の様々な活動を通して、
人々の美意識と創造力を高め、次世代人材を育成する。

デザイン思想を普及する
子どもから専門家まで幅広い人々が、柳宗理のデザイン思想に触れ、
デザインについて理解を深める。

美と創造の交流拠点とする
市民や来街者等に開かれた施設とする。

（３）担うべき役割

本施設が担うべき役割を対象４つに類型化する。

対象	学生（美大等）	専門家・事業者	市民・子ども	来街者
デザイン資料の利活用	・柳宗理のデザイン思想や研究成果等の発信（創作活動への活用） ・柳宗理の貴重な資料の保存 ・教育プログラムとの連携	・柳宗理のデザイン思想や研究成果等の発信（産業活動への活用） ・柳宗理の貴重な資料の保存 ・デザインを通した交流・意見交換の場の提供	・柳宗理のデザイン思想の発信（美意識と創造力の向上） ・市民講座やＷＳ等の開催	・柳宗理のデザイン思想の発信 ・交流拠点としての公開
建物の利活用	・金沢美大の貢献者（宮本三郎）の壁画の公開 ・発表の場の提供 ・金沢の建築文化としての谷口吉郎建築の継承・公開 ・地域交流の場の提供			

（４）求められる機能

教　育

子どもから専門家まで、デザインへの理解を深める機会や、デザインに関する人材育成の場を提供する。

研究・収蔵

柳宗理のデザイン資料の調査研究や適切な保存を行い、ミュージアム運営の基盤とする。

普及・発信

展示や情報発信を通して、デザインに関心を持ち、デザイン思想に触れる機会を提供する。

交　流

市民や来街者等に開かれた美と創造の交流拠点として、交流の場と機会を提供する。

教　育

■教育プログラム

金沢美大内に柳宗理のデザイン資料等を活用する体制を構築し、博物館実習やデザイン演習等の実践の場としてミュージアムを活用する。

■発表

次世代の人材育成のため、金沢美大（主にデザイン科）の教育活動の成果発表や、金沢美大卒業生や若手デザイナー等の作品発表の場として活用する。

■ワークショップ、鑑賞ツアー

未来を担う子どもや学生のデザインへの関心を高め、創造力の向上につなげるため、教員等を含め、子どもや学生を対象としたミュージアム鑑賞ツアー、制作体験ワークショップ等を行う。

■専門家等の交流・意見交換、シンポジウム

デザイナーの創造力を刺激する場となるため、国内外の専門家の交流や意見交換の場として活用する。また、ミュージアムのあり方についての意見交換やシンポジウム等を通して、オープンに向けての気運を醸成するとともに、常に成長するミュージアムを目指す。

研究・収蔵

■調査研究

寄贈されたデザイン関係資料等を元に、柳宗理の活動履歴をはじめ、デザイン思想やデザインプロセス、柳宗理の作品や著作、金沢や金沢美大との関わり等の調査研究を行う。

また、柳宗理のデザイン思想を多方面から読み解き、幅広い視点でデザインを捉えるため、柳宗理に限らず、デザインに関する様々な調査研究を行う。

■アーカイブの構築

柳宗理の貴重な資料の活用・継承を図るため、寄贈されたデザイン関係資料を整理・記録し、アーカイブを構築する。

■収蔵

柳宗理の貴重な資料を後世に継承するため、適切な保管環境を整備し、維持管理を行う。

また、保管スペースの確保と収蔵品の有効活用のため、収蔵庫を見せる“収蔵展示”についても検討する。

■連携・協働

より魅力的なミュージアム運営を行うとともに、デザインミュージアムに対する関心を高めるため、国内外のデザインに関するミュージアム等と連携し、情報交換や収蔵品の相互活用、協働企画等の取組を行う。

普及・発信

■展示

柳宗理のデザイン思想に触れられるよう、柳宗理の人物像や活動履歴、当時の時代背景等に関する展示をはじめ、デザイン関係資料によるデザインプロセスの展示や、完成作品等の展示を行う。

また、柳宗理以外を含めたデザインに関する企画展や、学生の教育成果や若手デザイナーの作品等の発表の場としての活用などの多目的な展示を行う。

展示方式については、作品を動かせる動態展示や、作品に触れる展示、収蔵庫を見せる収蔵展示、インターネット上で見られるデジタル展示など、様々な方式を検討し、実現を目指す。

■情報発信

柳宗理やデザイン、ミュージアム等について積極的に情報を発信し、柳宗理やデザインについての関心を高め、ミュージアムへの集客を図る。

デザイン関係資料のアーカイブ情報や、柳宗理やデザインに関する調査研究成果について、インターネット等を活用して積極的に発信し、来訪のきっかけづくりを行う。

■体験

作品に触れる展示のほか、休憩スペースでの椅子やテーブル、カフェでの食器やカラトリーなど、実際に使い心地を体験できる場や機会の提供について検討し、実現を目指す。

交　流

■ワークショップ、講演会、イベント

市民のデザインへの関心を高め、美意識と創造力の向上を図るため、市民講座や講演会、ワークショップ、鑑賞ツアーや体験会等のイベントなどを開催する。

■地域交流

ミュージアム内のスペースを地域交流拠点の場として活用する。また、ミュージアムの活動においても他施設と連携・相互利用を図る。

■建築文化の発信

谷口吉郎が設計した貴重な建物であり、金沢の建築文化を代表する建物の一つとして、建物の解説の掲示や情報発信を行う。また、大壁画「産業と文化」についても、繊維会館として建てられた建物の歴史や、宮本三郎と金沢との関わりを示す価値ある作品として、適切に保存・公開していく。

■国際交流

金沢市の姉妹都市との交流活動や、金沢美大が行っている大学間交流等と連携し、海外のデザイナーや研究者・学生等とデザインを通した国際交流を行う。

■連携・交流

いしかわ生活工芸ミュージアム（旧石川県美術館、谷口吉郎設計）、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館、鈴木大拙館（ともに谷口吉生設計）等、柳宗理や谷口吉郎と縁の人物や施設をつなげた連携・交流事業を行い、相乗効果を図る。

（５）基本構想

【ビジョン】

デザインと建築意匠を通した美と創造の交流拠点

【ミッション】	【機能】	【ソフト（活動）例】	【ハード（空間）例】
柳デザインを学ぶ	教育	子どもや学生等のＷＳ、鑑賞ツアー 金沢美大との連携、学生等の作品展示	セミナーホール、ワークショップ室、交流サロン等
次世代人材を育成する	研究・収蔵	専門家等の意見交換、シンポジウム デザイン資料の保管、調査研究、アーカイブ構築、他施設との連携	作品を体験できるカフェ・休憩スペース、ショップ 保管庫、書庫、研究室
デザイン思想を普及する	普及・発信	柳宗理に関する展示、デザインに関する展示 柳宗理･アーカイブ情報･調査研究成果等の発信 作品を体験できる場や機会の提供	常設展示室、企画展示室
美と創造の交流拠点とする	交流	市民等のＷＳ、講演会、イベント 建築文化の発信、縁の人物等の連携交流事業	谷口吉郎建築の意匠継承

３．実現に向けた課題・留意点

■施設運営について

・体制整備と人材確保

施設運営については、基本計画の段階から、安定的な収入の確保や準備室の設置等を含めた体制の整備とともに、企画・運営を効果的に実行できる多様な人材（運営責任者、学芸員、エデュケーター、アーキビスト、事務員等）の育成・確保を検討する。

・気運醸成

デザイン資料に関する情報発信とともに、プレ展覧会やシンポジウム、改修プロセス映像の記録・発信、昔の写真の募集・展示等を通じて、市民をはじめ市内外において気運醸成を図る。

■建物整備について

・建物の価値付け

建設から約 70 年が経過しており、建物自体を価値あるものとして発信・継承していくため、国の登録有形文化財に登録し、ＰＲや補助制度等の活用を図るほか、建築当初の設計思想を想起させるなど、ストーリー性を持たせる。

・専門家の早期参画

建物の耐震性能や劣化状況を調査したうえで建物の耐震化を行うとともに、バリアフリー化を行い、また、収蔵・展示に適した整備を行う。

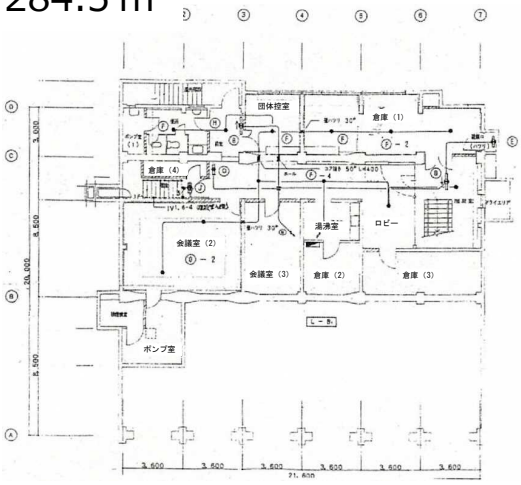
他方、建物保存とミュージアム整備の両立には、様々な制約も考えられるため、基本計画の段階から、建築の専門家等を参画させるなど、建物整備やゾーニング等について、総合的見地から検討していく必要がある。

［参　考　資　料］

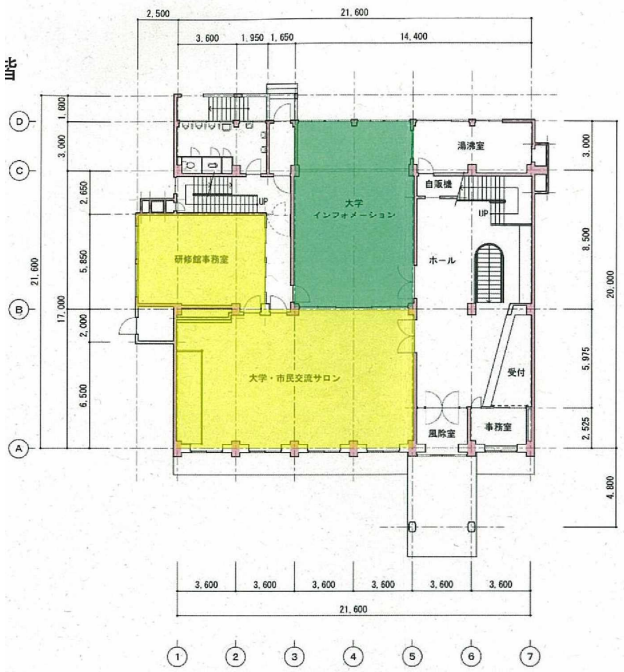
1．西町教育研修館（旧石川県繊維会館）

（1）平面図

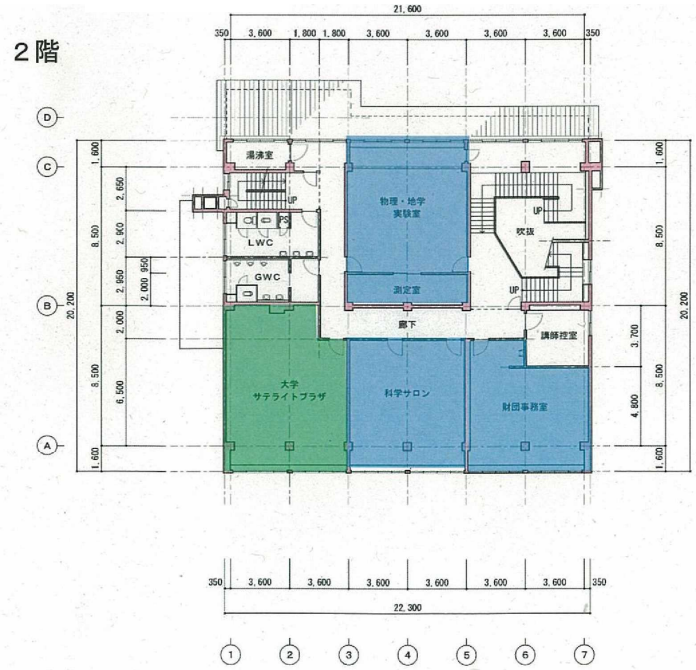
地階
284.5㎡



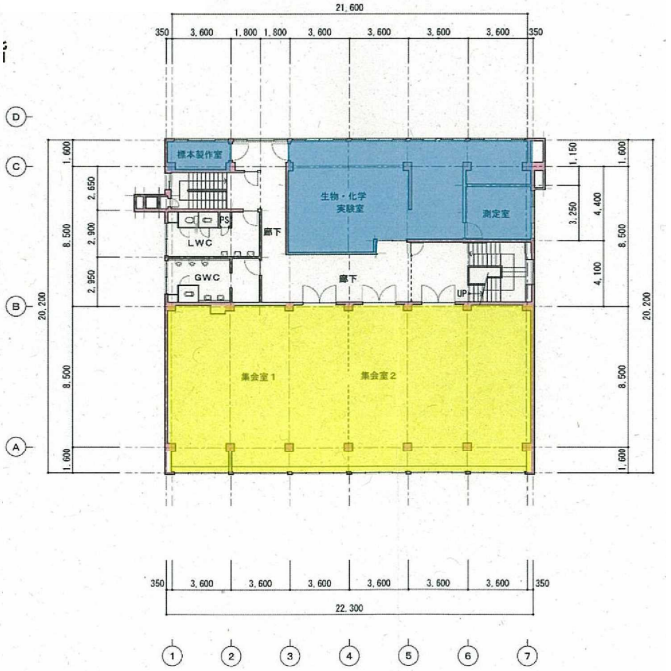
1階
470.9㎡



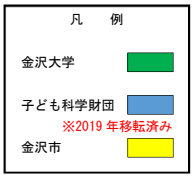
2階
450.8㎡



3階
450.8㎡



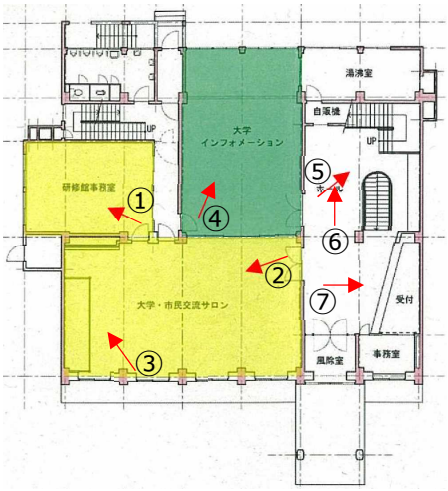
4階
26.16㎡
物置
（図面なし）



（２）建物の現状

【１階】470.9 ㎡

①会議室 41.0 ㎡



②交流サロン 124.1 ㎡

③宮本三郎作の壁画

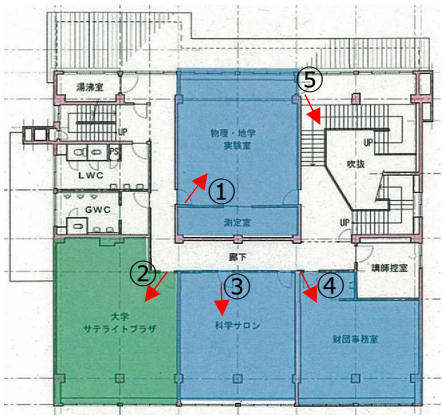
④大学インフォメーションセンター84.6 ㎡

⑤折り鶴形の照明器具

⑥ホール 82.1 ㎡

⑦受付 10.0 ㎡

【２階】450.8 ㎡



①物理・地学実験室 60.8 ㎡

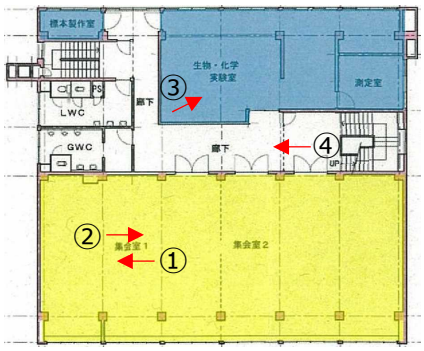
②大学サテライトプラザ 73.6 ㎡

③科学サロン 58.3 ㎡

④財団事務室 54.5 ㎡

⑤階段ホール

【３階】450.8 ㎡



①集会室 224.1 ㎡

②集会室

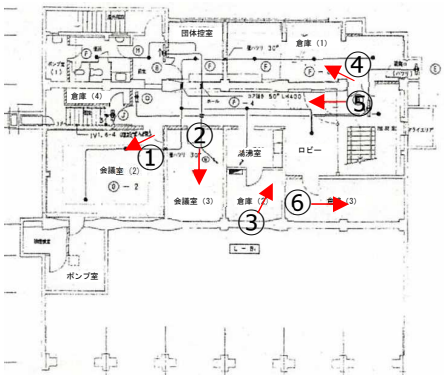
③生物・化学実験室 79.4 ㎡

④廊下

【４階】26.16 ㎡

物置・排煙機械室

【地階】284.5 ㎡



①会議室 43.0 ㎡

②会議室 19.0 ㎡

③倉庫 10.1 ㎡

④倉庫 41.8 ㎡

⑤廊下

⑥倉庫 35.0 ㎡

2．周辺施設

（1）施設（旧園邸）概要

■所在地　　金沢市西町三番丁 17-7
■建物構造　木造　２階建て
■建築　　1921 年頃（築 100 年）
■運営　　公益財団法人金沢文化振興財団
■見学　　土･日･祝日　9：00～17：00
　　（月～金、12～２月休館）
　　※現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、見学を休止
■貸室利用　9：00～16：00（要事前申込、有料）

旧園邸は 1921(T10)年頃、羽二重商を営んでいた本郷長次郎氏が邸宅として新築した建物で、その後、園酉四郎氏が取得し住まいとしていたが、夫妻の亡きあと、その遺志により、1992(H4)年 10 月金沢市に寄贈された。

大正期の近代和風住宅の一つとして大変貴重なもので、1994(H6)年 5 月に金沢市指定文化財に指定された。

（2）建物の特徴

道路に面して長屋門を思わせる門と塀が端正な趣を醸しだし、主屋張り出し部分と連なる意匠は、主屋の切妻屋根と調和しながら奥に連なる土蔵屋根と一体となって軽快な構成見せる近代和風住宅の秀作。

建物内部には表千家 12 代惺斉宗左（せいさいそうさ）の指導により茶室と路地がつくられており、茶室は三畳台目で「松向庵」と呼ばれている。

大正から昭和にかけて月釜が掛けられ、本格的な茶事が催せる茶室として評判だった。茶室は三畳台目の「松向庵」、その他に十畳の広間、水屋、待合などが坪庭を中心に巧みに構成されている。

【平面図】金沢市ホームページより

※緑色の箇所及び
２階は使用不可

前面道路

西町教育研修館

３．金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）基本構想検討会

（１）委員名簿

［座長］	**並木　誠志**	京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長
	川上　典李子	デザインジャーナリスト 21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター
	林　　洋子	文化庁参事官芸術文化担当付芸術文化調査官
	藤岡　洋保	東京工業大学名誉教授
	山崎　剛	金沢美術工芸大学学長

50 音順（座長除く）

事　務　局	金沢市都市政策局企画調整課
オブザーバー	金沢美術工芸大学

（２）開催状況

令和３年　７月２７日　　検討会（第１回会議）

・経緯・スケジュール
・デザインミュージアムの事例
・論点・課題整理

令和３年１０月２６日　　検討会（第２回会議）

・金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）基本構想骨子（案）について

令和４年　２月　１日　　検討会（第３回会議）

・金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）基本構想（案）について